

くしちや や ゆうじょ はか
串茶屋遊女の墓

種 別 小松市指定文化財 歴史資料
指定年月日 平成21年11月3日
所 在 地 串茶屋町

串茶屋町の東にある共同墓地内には、江戸時代中期から明治時代初期に建立された数多くの遊女の墓が守り伝えられている。串茶屋は、前田利常の小松城隠居以降、北国街道の宿場として発展し、そのなかで遊女たちは文化交流の仲立ちにも大きく貢献したとされている。

一般的に遊女の墓は一括供養されている場合が多いが、串茶屋では個々に手厚く葬られており、また大きさも様々で、造形的に優れたものや個性的な形の墓石が建てられているのが特徴である。

現在34基が確認されており、数度にわたる墓地整理・移設を経てもなお現在まで地元住民により大切に守り伝えられてきた。近世串茶屋の歴史や文化のみならず、信仰や地域性をも物語る歴史資料として貴重である。



くしちやや ものがたり

串茶屋のおこり ——— 廓の歴史

串茶屋の町の中を通っている旧北陸街道は、江戸時代になってから整備され、町の中程に道に向かい合って五間四方の塚と、その上に榎や松を植えた「一里塚」が築かれていました。今ではその面影はありませんが、この近辺では小松駅近くの竜助町と大聖寺寄りの月津町に設けられていました。この「一里塚」附近に武田なる浪人が府中屋を、木下なる浪人が木下と称するお茶屋を開き、旅人などが憩う茶菓子程度の接待をしたのが茶屋の始まりと云われています。

その後、加賀藩三代藩主前田利常公が小松に隠居（1640）し、那谷寺に詣でて、天正期（1580前後）に荒廃した本堂と各堂塔の再建（1642）にかかり、その時の職人達が帰り路、茶屋に立ち寄り、一日の疲れを癒したと云われています。婦女による飲食の給仕は次第に盛んになり、そのうち許可を得て、北陸街道では唯一のお茶屋として栄えて来ました。

以降、文化・文政（1800～）の頃には、京都の島原の風習を学び、服装に錦織を用いたり、頭髮にべっ甲の櫛笄を飾り、昼夜絃歌の絶えない街道一の賑わいを見せ、島原に劣らぬ繁盛ぶりで全盛を極め、芝居小屋まで建てられました。串茶屋の遊女は俳句に和歌、生け花や茶の湯などの習いごとや礼儀作法を教えられ、教養溢れ気品高き存在として、京の祇園さながらの様相でした。しかし、文政六年（1823）町の大半が焼失する大火にあい、一度は復興したものの、天

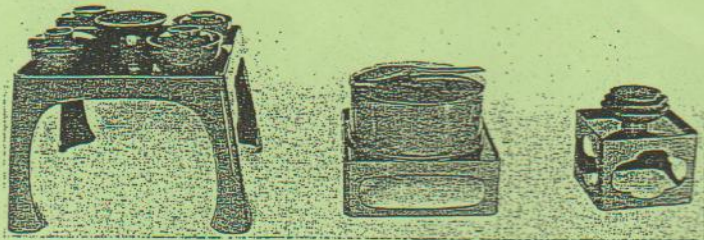
保十二年、儉約令により全ての面で簡素化を強いられ、打ち続く飢饉や一揆のため大きな打撃をうけました。

明治五年になると明治政府の娼妓解放令により、公娼制度が廃止され急速に賑わいが衰え始めました。更に、国道筋の営業停止、法律による営業一代制がしかれ、明治三十二年、約三百年にわたる「串茶屋の廓」の歴史は遂に幕を閉じることになりました。

民俗資料館は、文政六年の大火の後に造り酒屋の能登屋の客殿として、江戸中期を代表する建築様式により建てられた建物です。客殿には、加賀藩お抱え絵師



佐々木泉景画



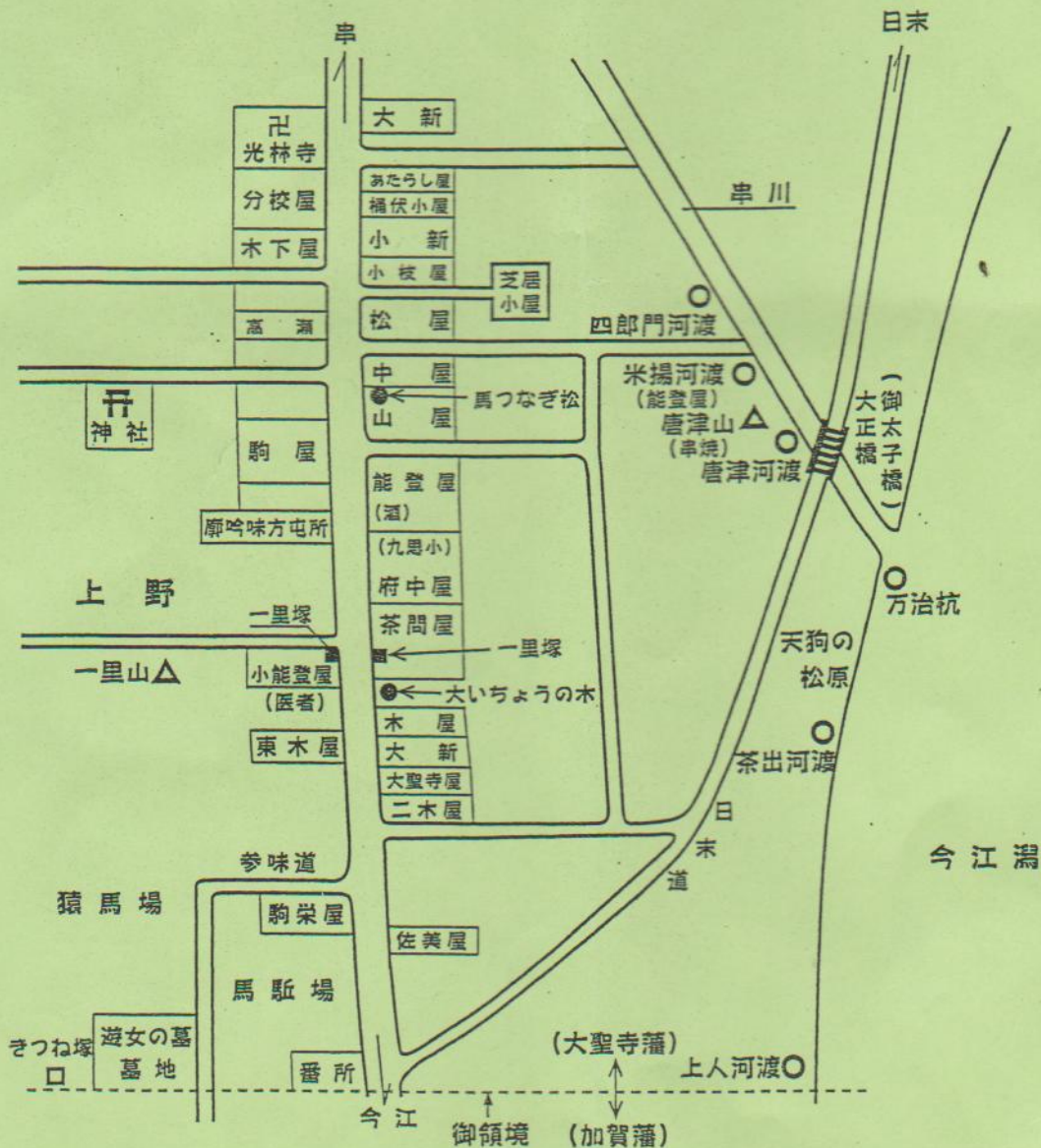
—— 高御膳・お櫃・盃の3点セット ——

筆頭佐々木泉景による天井画「雲龍」と襖絵が描かれています。座敷の欄間には土佐三筆の一人で、江戸初期に絵所預として活躍した光起（1617～1691）が描いた下絵をもとに彫られた、透かし

彫りの「月に子規」などで豪華に施されています。
 明治十一年十月六日（1878）には、明治天皇は北陸巡幸の途次、清水重作方客殿（現民俗資料館）を御小休所として使われ、御接待した由緒ある建物です。



—— 遊女の高下駄 ——



—— 茶屋最盛期当時の串茶屋の地図 ——

遊女の墓

串茶屋の墓地は三回も場所を変えており、現在地に移されたのは文化・文政（1804～1828）の頃です。「遊女の墓」として個人単独の墓としては全国的にも極めてまれです。しかも数多く存在しているのは串茶屋だけです。当時の遊女は、死後の取扱いは犬畜生の様な哀れなものでした。しかし、串茶屋の楼主や客は、養女としてその家の墓所に墓を建立して、菩提を厚く



吊ったのです。墓の建立年月日や遊女名、若死にの年齢なども意外とはっきりし、その数は三十七基が確認されています。その他楼廊は壊されたり移転したりしていて、昔を偲ぶよしもないが、二、三件ばかりその面影が現存しています。しかし、遊女を偲ぶ詩歌などが、わずかながら残っていることは幸いです。ここに「ヤッチン ドッコイ」と言われる歌と踊りが伝承されています。これは遊女品川と小兵衛心中の

—— 現存する茶屋の建物 ——

「ヤンレンくどきぶし」で、ヤッチン ドッコイ（それからどうした）のあいの手が入り、単調、素朴な節回しの歌と踊りです。昭和四十年、古老達によってこの歌が唄われ「やっちゃん踊り保存会」によって毎年七月十五日の祇園祭の輪踊りとして復活伝承されています。又、殆ど同じ歌詞（くどき）の砺南市（富山県）の「えんじやら節保存会」とも毎年交流している外、市内外の民謡愛好家などとも盛んに交流しています。



—— 遊女の墓 ——

「ヤッチン ドッコイ」の一節

梅が香りも 百万石の

かたい知行の 能美郡

ここに串とて 遊所がござる

木屋と名乗りし その評判を

紺の暖簾に 木の字の印

あまた女郎衆の あるその中で

わけて名高き 品川こそは

ことし十九で その名り振りは

吉野桜か 龍田の紅葉

ある日小兵衛は 朋輩共と

串の芝居に 誘われまして

それが長じて 遊所の宿り

初会乍らも ふとなれ染めて

こちらが惚れれば あちらが想い

恋の深みに 身は沈むとも

しらぬ小兵衛は 心の浅瀬

夜明鴉に 鳴き立てられて

名残惜しくも その夜は別れ

- 1 墓
天保五歲
五〇三〇
- 2 南無阿彌陀佛
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 3 法名尼妙境
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 4 法名釋尼妙照
甲安政元年
〇〇〇〇〇〇〇〇
俗名〇〇〇〇〇〇
章年政尾
年二十才
- 5 首欠地藏
俗名小し
申安政元年
七廿五日
- 6 法名釋尼〇〇〇
寅七月廿五日
- 7 法名釋尼妙誓
文化十四年
間十一月八日往生
俗名長谷川
- 8 釋〇〇秀
俗名ちりは
行年十九才
文〇〇〇〇日
- 9 首欠地藏
安永八年十月十二日
- 9 法名尼淨現
俗名毛七
寛政〇〇〇〇
俗名しの
- 10 釈妙幻
文政元年九月三日
俗名品川
- 11 法名釋尼妙幻
九月三日
俗名しながわ
- 12 法名釋尼貞聽
天保二歲辛卯八月九日
俗名越之井
- 13 〇〇現
〇〇〇〇〇〇
- 14 法名〇〇須
〇〇〇〇〇〇〇〇
法名〇〇誓
申〇〇月廿二日

- 15 南無阿彌陀佛
觀月水澄信女
天保十九年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 16 法名釋淨信
天保十九年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 17 南無阿彌陀佛
釋妙誓位
天保十三年癸未
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 22 〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 23 〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 24 法名釋尼妙貞
天保七年
〇〇〇〇〇〇〇〇

- 18 法名釋尼須往
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 19 法名釋尼妙往
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 20 法名釋尼空澄
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 21 法名釋尼芳安
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 25 法名釋尼妙周
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 26 南無阿彌陀佛
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- c 首欠地藏
- d 首欠地藏

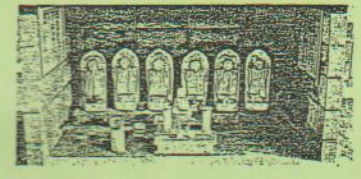
- 27 法名釋尼妙令
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 28 法名釋尼妙華
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 29 法名釋尼妙実
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 30 法名釋尼妙如
天保十一年
〇〇〇〇〇〇〇〇

遊女の墓見取図

平成19年4月調



— 串茶屋共同墓地内 —



茶問屋寄進六地藏

- 31 法名〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 32 法名〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 33 法名〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇
- 34 法名〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇

番外 法名釋尼妙信
文政十二年
十月四日

番外 南無阿彌陀佛
明治四年
十月七日
(中屋遊女)

串茶屋民俗資料館

小松市串茶屋町甲30番地

Tel (0761) 43-0434